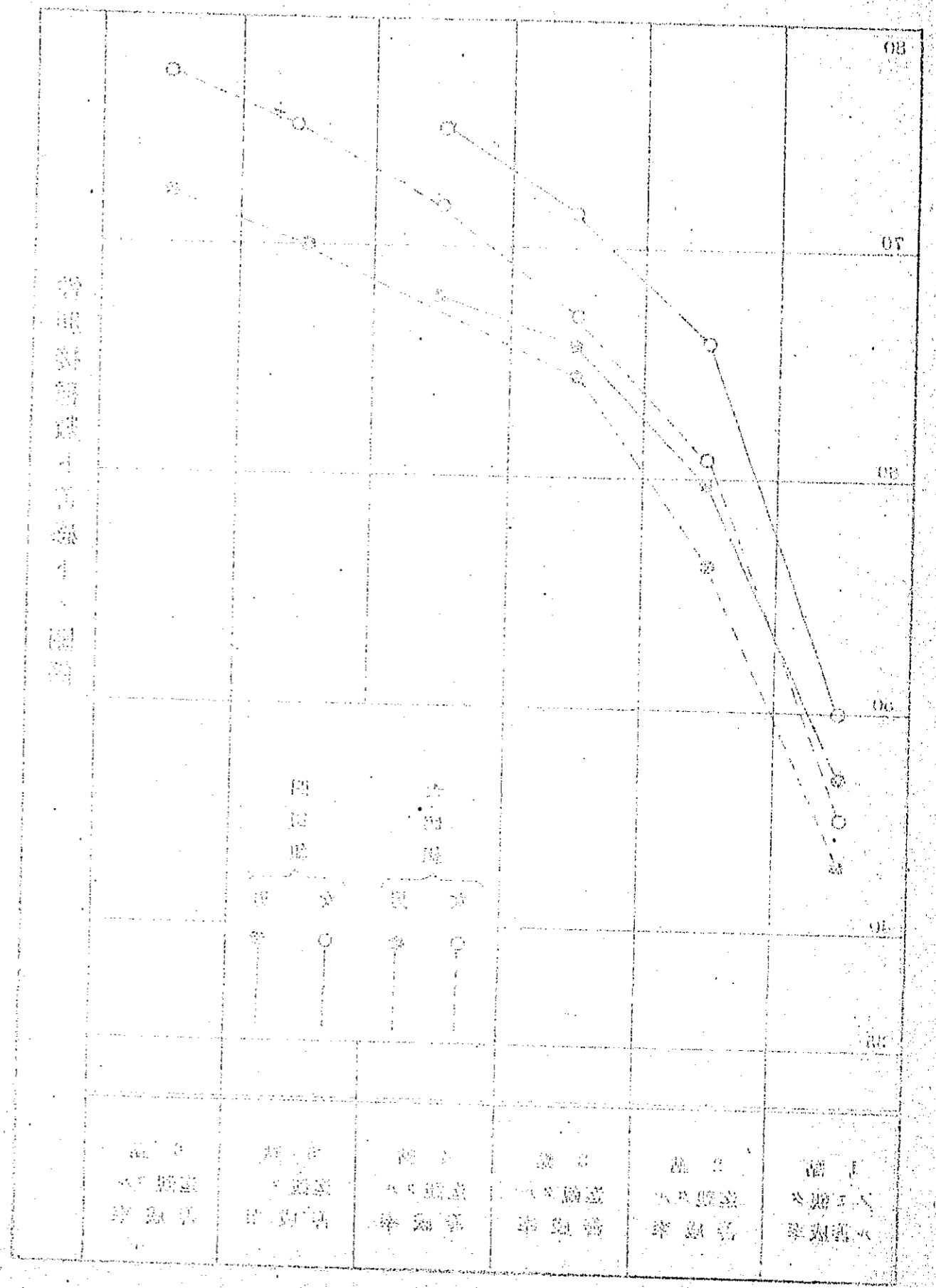
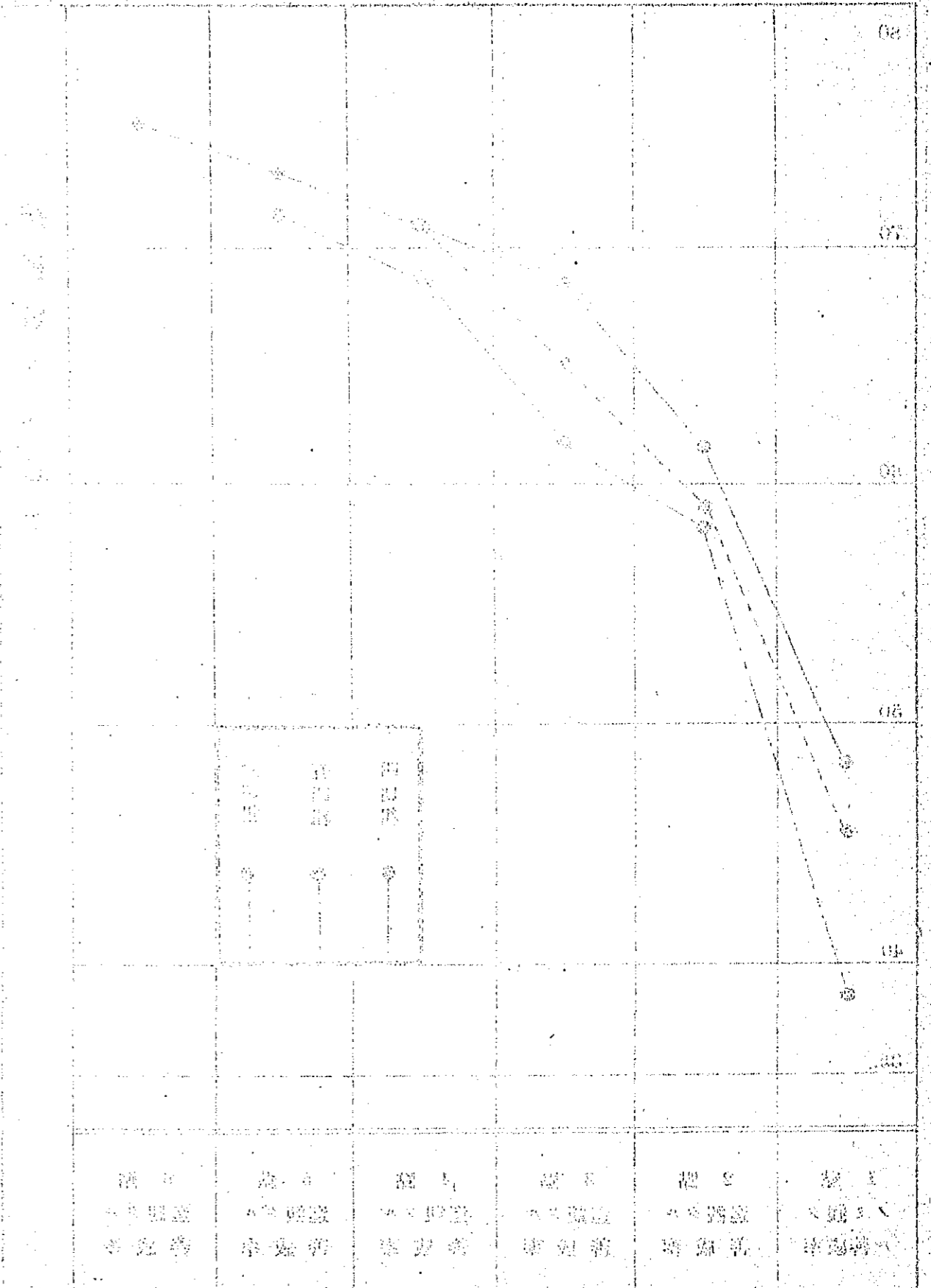


接種数と善感率



接種数と善感率



【本實驗ノ結論】

本實驗ノ成績ニ依レバ種痘ノ接種個數ト善感類數トハ密接ナル關係ヲ有接シ種個數多キ程善感率多キヲ知り得ベシ從テ完全免疫ヲ得ムト欲スルトキハ可及的多ク接種スルヲ可トス。

七、既往ニ於ケル種痘ノ善感程度

再種痘兒ニアリテハ初種痘ニ依リテ生ジタル痘痕ノ數大サ深サ及色彩第三回以後ノ種痘ニ際シテハ初種痘以來ノ接種回數及善感ノ程度等ハ被接種者ノ現在ニ於ケル種痘免疫ノ程度ヲ推測セシムル材料ナルヲ以テ術者ハ接種及檢診時ニ當リ常ニ是等ノ點ニ注意シ其ノ種痘ノ成績ヲ視察セザルベカラズ。(免疫論參照)

八、前回種痘ヨリノ經過年數

種痘ニヨリテ得タル免疫ハ痘瘡經過後ノ免疫ニ比シ其ノ持續期間甚ダ短キコト後編ニ記載スルガ如シ現今我國ニ於ケル第二期定期種痘ハ初種痘後滿八年ニシテ行ハレツツアリテ其ノ成績平均六一%ニ達セリ故ニ前回種痘後八年ニ滿タザルモノ若ハ夫レ以上ヲ經過セルモノニ於テハ其ノ成績之ガ爲ニ動搖スルモノナルヲ以テ臨時種痘ヲ施行スル場合ニ於テハ特ニ考慮セザルベカラザルコトナリトス。(免疫論參照)

九、檢診標準

現今準據シツアル檢診標準ハ明治四十二年種痘施行心得第十二條ノ規定ニシテ第一期種痘ニ在リテハ定型痘疱二顆以上ヲ生ジタルモノヲ善感トシ第二期種痘以後ニアリテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水疱ヲ生ジタルモノモ善感トセリ東京市ニ於テハ明治四十五年二月第二期種痘檢診ノ標準ヲ定ムルノ議ヲ起シ特ニ委員ヲ選ビテ考究ノ結果第二期種痘檢診圖譜ヲ刊行シタ

ルコトアリ、然ルニ實際ニ於テハ第二期以後ノ種痘經過ハ頗ル多様ナルガ故ニ、單ニ右ノ如キ標準ノミヲ以テシテハ統一セル成績ヲ收ムルコト能ハズ人ニヨリ其ノ判定ニ甚シキ相違ヲ來スコト尠ナカラズ、惟フニ善感トハ接種セラレタル痘毒ガ一部分タリトモ必ズ之ガ増殖セリト認メラル可キ症狀ナカハル可カラズ、予等ノ實驗(第四編第五章)ニ依レバ生死兩苗ヲ用ヒ再種痘ヲ行ヒタル結果人ニ依リテハ水泡、丘疹等ノ狀況及經過ヲ以テシテハ死滅痘苗ニテモ生痘苗ト全ク區別シ能ハザルコトアルモ、第八日目ニ之ヲ觀レバ生痘苗ニ於テ善感ト認ム可キ場合ニハ浸潤ノ有無若クハ其ノ程度ニ於テ死滅痘苗ニ比シ明カナル差異アルヲ認メタリ、故ニ爾今再種痘ノ檢診ニ當リテハ上記標準ノ外左ノ事項ヲモ考慮セザル可カラザルモノト信ズ。

- (1) 檢診ハ接種後早クモ第八日目ニ於テ行フコト、第八日目以前ニ在リテハ死滅痘苗ニ由ル反應ト區別シ能ハザルモノアルヲ以テナリ。
- (2) 善感ノ場合ニ在リテハ第八日目ニ於テ必ズ相當ノ浸潤ヲ證明スルコト。
- (3) 「アルレルギ」反應ハ其ノ有無及程度ニ依リ略々既得種痘免疫ノ程度ヲ示スモノナレバ之ヲ參考トスルコト。

10. 反復種痘

種痘成績ニ影響ヲ及ボス事項既ニ叙上ノ如ク多種多様ナルヲ以テ其ノ成績不良ナルモノニ對シテハ初種痘者タルト再種痘者タルトニ關セズ直ニ接種ヲ反復スルヲ可トス、特ニ流行時ニ際シテハ然リトス(如斯種痘ヲ便宜反復種痘ト稱ス)我國ニ於テ本法ニ依リテ好成績ヲ得タルモノ尠ナカラズ、左ニ二三ヲ摘録ス可シ。

(一) 太田包美氏ノ實驗

區分	成績		備考
	第一次	第二次	
接種人員	二、一八八	一、四三三	尙此外ニ第一次第二次共、善感シタルモノ八名アリタリト云フ
善感人員	七五三	一一一	
善感率	三四・三六	八・五八	

太田氏ハ福岡縣某炭坑ニ於テ大正七年一月十日ヨリ十四日ニ至ル間ニ第一期種痘ヲ行ヒ、其ノ際不善感ナリシモノニ對シ一月三十日ヨリ二月二日ニ亘リ第二次種痘ヲ施行シタルガ、其ノ成績左ノ如シ。

尙以上ノ内、年齢二歳ニシテ初種痘ノモノ五十二名アリ、第一次種痘ニ於テ五名(三・四九%)ノ不善感者ヲ出シタルガ第二次種痘ノ際ニ是等五名ノ不善感者ニ反復種痘ヲ行ヒタルニ、内四名ハ何レモ善感シ僅ニ一名(〇・六九%)ノ不善感者ヲ殘シタリト云フ。

(二) 加計塚小學校ノ成績

管下澁谷町加計塚小學校ニ於テ大正十三年痘瘡流行ノ際、同校兒童ニ臨時種痘ヲ施行セリ、即チ第一次ハ一月九日之ヲ行ヒ、其ノ際不善感ナリシモノ五百五十四名ニ對シ、一月二十五日更ニ第二次種痘ヲ行ヒタルニ、其ノ内五十一名(九・二一%)ハ善感セリ、其ノ成績ヲ詳記スレバ左ノ如シ。

年齢	第一次		第二次	
	接種人員	善感人員	接種人員	善感人員
八歳	九七	六九	二二	四
九歳	一七九	一三八	四一	六
十歳	一八五	一三二	五八	七
十歳	一六八	四七	一一五	一八
善感人員百分比	七二・一三	七七・〇九	七二・三五	一八・一八
		二七・九八		一四・六三
				一二・〇七
				一五・六五

年齢別成績	第一次		第二次	
	接種人員	善感人員	善感人員百分比	接種人員
十歳	一八五	四四	二三・七八	一四〇
十歳	一五九	四九	三〇・八二	一〇八
十歳	八三	二五	三〇・一二	五八
十歳	一四	一五	三五・七一	九
十歳	四	一	二五・〇〇	三
計	一、〇七四	五一〇	四七・四九	五五四
				五一
				九・二一

(三) 石島氏ノ實驗

第三編第五章第一節ニ記載セル如ク石島氏ガ初生兒ニ對シ反復種痘ヲ行ヒタル成績ヲ見ルニ第一回接種ニ於テ八六六%善感シ、第二回ニ於テ更ニ九〇%善感シ、第三回ニ於テ二六%善感シ、以上三回反復スルモ尙一八%不善感ナルヲ認メタリ。

(附) 第一期種痘ニ一類善感ナリシ爲、行政上不善感ノ

取扱ヲ受クル者ニ關スル考察

一、實際調査

昭和三年自六月至九月期間ニ於テ、東京市及近接郡部ノ町村ニ就キ、防疫監吏ヲシテ先ヅ種痘臺帳ニ據リ、第一期第二回種痘ヲ受ケタルモノヲ調査シ、次テ本人ニ就キ第一期第一回ニ全ク不善感ナリシカ、又一類善感ノ爲メ、不善感ノ取扱ヲ受ケタルモノナルカヲ區別シ、其ノ後者ニ就テハ第二回ノ成績如何ヲ

確認セシムルコトトナシ、何レモ確實ナル痘痕ヲ有スルモノノミ三百十八名ヲ得タリ。

然ルニ前記三百十八名中ニハ第一期第一回不善感後或ハ其ノ年内ニ或ハ二年後、三年後等ニ再種痘ヲ受ケタルモノ相當多數アリ、又調査要項記載不充分ノモノアリタルヲ以テ其ノ中ヨリ調査ノ目的ニ適スルモノ二百二名ヲ選ビ次表ヲ作製セリ。

調査人員ニ對スル百分比	調査人員	不善感人員	善感人員					計
			一類善感	二類善感	三類善感	四類善感	五類善感	
二〇・二	一六八	一六	一〇	三	四	一	三四	
八三・一七	七・九二	四・九五	一・四九	一・九八	〇・五〇	一六・八三		

二、第一期種痘ノ善感類數ト翌年接種ノ善感率

昭和三年五、六月ノ候管内青梅町、町田町ニ於テ三歳乃至六歳ノ兒童一千二百四十八名ニ就キ、再種痘ヲ施行シ、第一期種痘ノ痘痕數ト善感率トノ關係ヲ觀察セリ、其ノ成績ハ次表ノ如クニシテ三歳ノ小兒第一期種痘ヨリ一ケ年餘ヲ經過シタルモノニ於テハ痘痕一類ヲ有スルモノモ、二類ヲ有スルモノモ其ノ善感率ニ於テ差異ヲ認メザリキ、四歳、五歳、六歳ノ小兒ニ在リテハ多少ノ差異ヲ示シ、三歳ヨリ六歳マデヲ通計スルトキハ一類ノ痘痕ヲ有スルモノハ善感率七〇・九一%ナルニ、二類ノ痘痕ヲ有スルモノハ六一・八六%ニシテ其ノ差約九%ヲ數フルニ過ギズ、然ルニ二類ノ痘痕ヲ有スルモノト三類以上ノ痘痕ヲ有スルモノトノ善感率ニハ大ナル差異アルヲ以テ大ニ考慮ヲ要シ、本調査ノ成績ヲ以テスルトキハ寧ロ二類善感以下ヲ不善感トシテ取扱フカ、又ハ一類タリトモ善感シタルモノモ行政上善感トシテ處理

第八章 反種痘運動

歐米諸國ニ於テ所謂「反種痘同盟」ト稱シ牛痘接種實施ヲ非トスル一派アルハ夙ニ人ノ知ルトコロナリ、其ノ主張者ニハ知名ノ士、醫藥界ノ大家等少カラズ、社會輿論ヲ率ヒテ侮ルベカラザル一勢力ヲ有シ本病豫防上一大支障ヲナセリ、現今英米ノ如ク法律ヲ以テ種痘ヲ強制セザル國ニ於テハ重キヲ個人ノ自覺ニ俟ツコト多キヲ以テ特ニ「反種痘同盟者」ノ意嚮ヲ察知シ其ノ主張ノ由テ來ル所以ヲ明ニスルヲ要スルモノアリ、我國ニ於テモ輒近泰西諸種ノ思想踵ヲ接シテ傳來スルニ當リ、或ハ他日此種ノ主張ニ共鳴附和スルモノ輩出セザルコトヲ保スベカラズ、仍テ茲ニ數頁ヲ其ノ主張研究ニ割クモノナリ。抑々「反種痘同盟者」ノ主張ハ凡ソ三種ノ出發點ヨリ起ルモノノ如シ。

(一)種痘ハ天理ニ背クモノナリトスル者乃チ種痘ノ如キハ神ノ攝理ニ反抗スルモノニシテ自然ノ運命ニ對敵スルガ故ニ、他ノ種々ナル人工的自然胃潰例之避妊法ヲ講ジテ本能ノ眞諦ヲ沒却スルガ如キ法ハ悉ク之ヲ排斥シテ止マザルガ如ク、甚シキハ今日現行ノ醫治療法ノ多クヲ非トスルモノナリ、而シテ彼等ノ主張ニモ或程度ノ眞理アリト爲ス神學者、科學者、政客少カラズ、其ノ論中例ヘバ「下痢患者ニ阿片ヲ投ズルヲ非トシテ寧ロ下劑ヲ投ズベシトシ、又絶望ナル死戰期ニ「カンフル」ヲ與フルヲ一ノ罪惡トシ、反テ適當ノ「Euthanasia」(安樂往生)ヲ計ルヲ人道ナリトナス等ノ說ハ彼等ノ主張宣傳ニ大ニ力アルモノノ如シ。

(二)種痘ノ無效ヲ主張スルモノ、乃チ確實ナル種痘善感ニ續發セル眞痘發病ノ例證ヲ擧ゲテ種痘免疫論ヲ

當ラズト爲シ、又ハ少クトモ不備ナリト爲スモノニシテ、彼等ハ或ハ種痘ヲ以テ一種ノ欺瞞ナリト稱シ、又ハ不確實ナル豫防法ヲ行ヒテ反テ爲ニ病毒ニ接觸スル機會ヲ許スノ危險ヲ叫ブモノ。

(三)種痘後胎症又ハ續發スル危險ヲ擧ゲテ之ヲ攻撃スル者。

等ノ三派アルニ似タリ、其ノ最モ組織立チタルモノハ種痘法發祥ノ地タル英國ニ於ケル「反種痘同盟」(The National Anti-Vaccination League) ニシテ、ロンドン市ヴォークンブルグリツヂ街二九六番地ナル「デニス」ハウス第二五號ニ事務所ヲ有シ、隨時頻々「パンフレット」ヲ發行シテ大衆ヲ指率シ種痘法實施ニ反對スルモノナリ、此外米國ニ於ケル「クリスチヤンサイエンス」及米國「反種痘同盟」如キ亦多數會員ヲ擁シテ其ノ勢力侮ルベカラザルモノアリ、今試ミニ最近一、二年間ニ於テ英國「反種痘同盟」ニ於テ發布セル宣言、主張説明等ノ中、二、三ノ文献ヲ列記スレバ凡ソ次ノ如シ。

- 一、種痘善感後痘瘡ニ罹患セシ實例
- 二、種痘後痘瘡ニ罹患シ、遂ニ死亡セシ實例
- 三、種痘善感後眞痘ニ罹患シタルモノ竝遂ニ死亡セシ初種痘兒ノ實數ヲ示スモノ
- 四、種痘善感者又ハ再種痘者ニシテ痘瘡ニ罹リタルモノ及其ノ爲ニ死ノ轉歸ヲ取リタルモノノ實例(以上官廳ノ記錄ヲ基礎トセルモノ)

五、如何ニシテ英國國民ハ種痘ヲ信ゼザルニ至リシヤ(一九二二年發行)

六、英國ニ於ケル種痘法及痘瘡ニ就テ、獨逸種痘贊成論者ドクトル「ブレーケー」氏所論反駁

七、痘瘡及種痘ニ就テ

一、一九〇七年種痘法改正前下、其ノ以後ニ於ケル英國及ウエールスニ於ケル痘瘡流行ノ狀況

八、痘瘡及痘瘡ニ接觸シタル者ヲ隔離セントスル提案ニ反對意見

九痘瘡患者ノ隔離ハ全ク種痘ヲ經過セルモノノ爲ニ費消シツアリトノ論
 〇獨逸ニ於ケル痘瘡ニ比シ種痘ヲ強制セザル英國殊ニ倫敦市ニ死亡者少シトノ論
 二種痘後ニ發スル危險ナル種々ノ合併症ニ就テ

以上ノ内第五如何ニシテ英國國民ハ種痘ヲ信ゼザルニ至リシヤノ一篇ヲ左ニ譯出セン。

英國ロンドン市反種痘同盟理事 一九二二年一月發布

種痘問題ハ殊ニ印度民族ニ對シテ最大緊要項目ナリ乃チ毎年印度ニ於テ種痘接種セラルル幼兒ノ數ハ九百萬人ニシテ政府ハ彼等ニ凡ユル強制的方法ヲ以テ種痘接種又ハ再接種ヲ施行ス一九一一年乃チ昨年ニ至リテハ政府ハカルカッタ市ニ於テ恐ルベキ痘瘡大流行ヲ見タルニ際シ市内ノ學生全部ニ再種痘接種ヲ強行セリ而モコノ強制的ノ方法ハ數千ノ教育アル理解アル印度人ヲ中心トシテ各方面ニ反對ノ聲ヲ揚ゲンメタルノミナラズ斯ル法令ガ發布サルニ至リシ種痘法其ノモノニ對スル非難攻撃ヲ惹起セシメタリ。

英國史ヲ閱スル者ハゼンナーガ其ノ種痘法ヲ創メテ發表セシ當時ニアリテハ英國下級民等ハ甚シキ悲運ノ下ニ在リシヲ熟知スルナラン乃チ疫病ノ傳染汎發ハ貧困窮乏ト共ニ彼等ノ間ニ遍ク他方僧侶地主官吏等ハ絶大ナル勢力ヲ以テ彼等下級民衆ニ臨ミ不法ナル種痘強制サヘモ隱忍シテ受ケシムルニ此ノ面倒ナカリキ上中流階級ノ人士ハゼンナーノ學說及實地種痘接種施行ガ無害ニシテ兎モ角モ當時ノ方法トシテハ試ムベキ效果アルモノトシテ之ヲ迎ヘタルモ而モ一方種々ナル注射接種法ノ實行ノ衝ニ當レル醫師ニシテ種痘ヲ拒避セル者亦渺カラザリキ斯ルゼンナー說反對者ハ他方各種ノ注射接種法等ニ

就テハ所信アリタリト雖而モコノ種痘法ニ對シテハ敢然トシテ反對ノ聲ヲ揚ゲンゼンナー說ヲ誤リト其ノ欺惑ヲ公開シ該法ノ痘瘡豫防上ニ備無効ナルコトヲ一々例證ヲ舉ゲテ説明シ種痘法ノ害惡弊害ヲ指摘シ遂ニハ種痘法施行案支持者ニ迫リテ彼等ノ所謂効果確實說ヲ撤回シ其ノ痘瘡豫防力ハ保證シ難キモノアリト自白センコトヲ要求シ種痘効果ノ真相乃チ病狀甚ダ劇シカルベキモノニ就テハ僅ニ之ヲ多少輕減發病セシムル程度ノ助ケトハナルベキモ而モ輕症中等症及絶望的ノ劇症ノ何レニ於テモ種痘ヲ實施セシモノト未種痘者ニシテ罹患セシモノトノ間ニ豫後ニ何ノ差異ナキ旨ヲ自認告白スベシト要求スルニ至レリ。

當時乃チ十九世紀ノ初メニ當リテハ是等下級民衆ハ實ニ甚シキ壓迫ノ下ニ奴隸視セラレツアリタリトハ雖而モ種痘ノ實施ニ當リテハ必シモ常ニ悉クコレヲ肯認セズ爲政者ノ豫期セル如キ徹底的強制ヲ行ヒ得ザリキ一八三一年ヨリ一八五一年ニ至ル二十年間ノ國立種痘局報告ニ依ルモ大衆中種痘ヲ拒避スル者少カラザリシコトヲ立證シ得ベク一八五一年度ニ於ケル報告ニハ反種痘同盟者ノ反對實行運動ニ關スル記載アリ。

一八四八年度ニ就テハ英蘭及ウエール州ニ於テ生レタル兒童中三分ノ一以下ガ種痘ヲ施サレ其ノ他上流社會ノ兒童及兩親等自辨シテ家庭ニ於テ種痘ヲ行ヒタルモノ多少アルノミナリキト云フ乃チ強制的ニ法令ヲ以テ之ヲ行ハントスルニ當リ其ノ效果ニ對スル信用ガ最低下セル事實ハ當時ノ官廳記錄ニ徴シテ明カナルガ是レ一見甚ダ奇怪ニシテ而モ其ノ理由ハ極メテ簡單ナリ畢竟種痘法ノ出現其ノ強制施行ハ一般開業醫師ガ努メテ失ハザラントスル一收入ノ好機會タリシコトニシテ又彼等醫師ガ其ノ施行ヲ必要ナリト宣傳スル機會ヲ與ヘ一八五〇年ニ於テハ是等醫師團ハ自ラ僭稱シテ疫病研究協會ナルモノヲ結黨シ一八五三年途ニ最初ノ英國強制種痘法案ノ通過ニ努力シタリ。

ウキリアム、ホワイトハ其ノ著書「大欺瞞ノ誤」中ニ述テ曰ク、或ル特殊ノ目的ヲ有スル組織的利權獲得案ハ常ニ不注意且無關心ナル而シテ積極的行動ヲ缺ケル大衆ノ上ヲ襲ヒ得ルモノナリ、斯ル状態ノ下ニ在リテハ公益ニ反シタル如何ナル事ヲモ管ニ議會ヲ通過セシムルニ成功スル丈ニハ一舉手一投足ノ易事ノミ、カクシテ彼等ハソレヲ得タリギ、彼等ハ如何ニシテ得ベキカヲ熟知スルナリ云々

斯クシテ一八五三年ノ法令乃チ種痘法實施ニ反對スル兩親ハ處罰セラレベシ、生後三ヶ月以内ニ其ノ出生兒ニ種痘ヲ行フコトヲ拒ミ又ハ怠リタルモノハ科料金二〇志ヲ申渡サルベシト規定セララルニ至レリ、然レドモ該法令ノ實施ニ當リ法ノ不備ナリシ爲メ此法ハ完全ニ施行セラレザリシヲ以テ種痘法支持者ハ更ニ凡ユル機會ニ於テ議會ニ迫リテ法ノ完備ト實行トヲ懇願セルモ毎回成功セズ、下級民衆ハ更ニ他ノ法令ヲ以テ強制セララルベク試ミラレタルモ是亦遂ニ議會ヲ通過セズ、一八五五年及五六年ニ於ケル彼等ノ企テハ何レモ失敗ニ歸シタリキ。

一八五三年ノ法令通過前マデハ種痘法實施ニ對スル反對ノ聲ハ唯其ノ施術ニ對シテノ如何ナル意味ノ反對ヨリモ寧ロ愛兒ヲ種痘接種ヨリ免カレシメムト計ル忌避ヨリ出發セルモノニ過ギザリシガ、種痘法ノ強制サルルニ及ビテハ遂ニ進ンデ種痘其ノモノニ對スル反對トナリ、全國ニ亘リテ公然種痘反對運動ヲ起スニ至レリ、英國ニ於テ斯ル公然ノ反種痘論ヲ叫ビタル最初ノ人ハ「クエーカ」ノ信徒タルデオン、ギフス氏ニシテ一八五五年六月三十日一書ヲベンヂヤミン、ホール男爵ニ致シ其ノ書簡ハ衆議院ノ決議ヲ以テ代議士デョセフ、ブラザトン氏ノ發議ニ基キ一八五六年三月三十一日印刷ニ附シ公表セララルニ至レリ、ギフス氏ハ英國最高權威醫學雜誌タル「ラセツト」誌上ヨリ拔萃セル記事並ニ大多數民衆ノ叫ビテ辯シテ種痘術ガ如何ニ痘瘡豫防效力ナキガ、又種痘後ニ續發セル災害ノ如何ニ恐ルベキカヲ一々例證ヲ舉ゲテ説明セリ、此公開狀ニ對スル返信ハ一八五七年種痘法ノ歴史及其ノ實際價值ニ關スル報告ナル題下

ニ衛生局醫官デオン、シモンズ氏ニ依リテ編述セラレタリ、此報告ハ種痘法ニ對スル破格特別ナル賞揚ヲ敢テシ而モ其ノ記載ハ公平ナル研究ニ依リテ忽チ荒唐無稽ナルコトヲ立證セラレ且甚シキ誤解ト手前味増タルコトヲ直ニ證明セララルベキモノナリ。

種痘法支持者ハ強制種痘法實施企畫ガ失敗スルヤ大ニ之ヲ憤リ一八六一年ニ至リ遂ニ一八五三年法令種痘強制法ニ對スル服從ヲ強要スル爲メ監視官ヲシテ兒童保護者、後見人等ヲ監督セシムル法案ノ議會通過ヲ計ルニ至レリ、又一八六一年ニ至リテハ更ニ一法令ヲ上案シ其ノ第三十一條ニ於テ「兩親タル者ハ其ノ兒ニ種痘ヲ施行スルヲ忌避スルニ於テハ該兒ガ滿十四歳ニ到達スル迄ノ間毎年罰金刑ヲ求刑サルベシ」トマデ規定セリ、此法案ハ不注意無關心ナル兩院議員等ニ何ノ反對モ惹起セズシテ通過シ、又異議ナキニアラザリシモ不問ニ附サレ遂ニ一八六七年八月十二日勅裁ヲ得ルニ至レリ。

此新法令第三十一條ハ英國内各所ニ於テ異常ナル反響ト同情トヲ惹起シ該法令ガ一八六七年效力ヲ發スルニ至リシ前年乃チ一八六六年度ニ於テ其ノ法案ヲ附議セル委員會ニ列席セル代議士デオン、カンドリツシユ氏ノ如キモ罰金刑ヲ連續シテ科スベキ考ヘバ無カリシ旨ヲ發表シ大審院判決ニ於テモ兒童ニ對スル種痘接種ヲ忌避セル場合ニハ兩親ハ連續セル罰金ヲ科セラルルコトモアルベシトセラレ、又同氏ハ該法ノ改正案ヲ議會ニ建議スルニ及ベルモ、其ノ改正案ハ院議ニ附スルニ時機既ニ過クシテ今期ニ間ニ合ハズ、來年ノ開議ニ附スベシト政府ヨリ公約セラレタリ、而シテ其ノ附託セラレタル委員會ハ一八七

一年二月十三日カンドリツシユ氏ニ對スル公約上嫌々ナガラ、W. P. フォースタト氏ニ依リテ開會セラレ多數ノ證據、検査等ノ後遂ニ連續スル罰金刑ハ之ヲ抹消スル案ニ贊成スル旨報告セラレタリキ、其ノ委員會決議ハ直ニ公文ニ編作セラレテ議會ニ提出セラレ、八月十五日下院ヲ通過セリ、然ルニ該改正案ガ上院ニ送致セララルルニ及ビ其ノ罰金刑ヲ一回ノ求刑ニ限定スル字句ヲ削ラントスル議提出セラレ投票ノ

結果原案ヲ可トスル者七ニ對シ削除セントスル者八ヲ示シ唯僅ニ一票ノ差ニ依リテ全上院ノ實際上ノ所見何等之レ無キニモ拘ハラズ本案ヲ否決シ數百萬ノ自由ヲ障礙セリ而シテ法案ハ再ビ下院ニ返却セラレ下院ハ上院ノ院議ヲ容レ其ノ連續的罰金科刑ハ一八九八年ニ至ルマデ繼續セラレタリキ。

扱テ筆者ハ茲ニ本編ノ最モ主要ナル條項乃チ如何ナレバ英國民ハ斯ノ如ク終始種痘接種法ニ反對スルヤ其ノ理由ニ就キテ述ブルノ要アルニ至レリ。

其ノ最初ノ理由ハ接種ニ伴フ危害ニアリキ乃チゼンナリ自身牛痘ハ常ニ丹毒ヲ伴フヲ恐レアルモノガ亦ト公表シタリキ事實ニ於テ當ニ多數ノ丹毒患者ガ被種痘者間ニ發生セルコトモ其ノ中ニ死者ヲ出シタルコト尠カラザリシコトモ人ノ知ル處ナリ是等官廳記錄ニ徵スルモ毎年種痘ニ因リテ死亡スル數ハ平均一週一人ノ割合ニシテ善感痘漿ヲ直接人ヨリ人ニ移植スル方法ハ固ヨリコレニ代ウルニ牛痘漿ヲ以テスルトモ種痘死ノ數ハ依然トシテ尠カラズ又微毒又ハ微毒類似ノ疾患ガ種痘ニ依リテ人ヨリ人ニ移植セラレ傳染セシメラルルコトモ稀ナラザリキ政府ノ説明ニ依レバ微毒病原ガ種痘ト共ニ移植サルルコトハアリ得ベカラザルコトナリ不可能事ナリト斷言スルモ事實ハ之ヲ立證セリ地方官廳記錄ニ家長ノ須知スベキ種痘ノ真相ト題スル「パンフレット」中ヨリ拔萃スルニ次ノ如キ句アリ。

「種痘ニ依リテ他ノ續發疾患ガ傳染セラルベシトノ杞憂ハ無要ノ事ナリ斯ル事アリトセバソハ實ニ種痘接種者ノ甚シキ不注意ニ因ルナルベシ……………種痘ニ後發スル危害ハ實際凡テノ醫家ニ依リテ否定スル云々。

一八六二年イタリ一醫事雜誌ハリヅルタニ於ケル種痘接種施行中續發セル小兒微毒ノ多數例ヲ報告セリ而シテ一八六一年十二月二十一日發行大英醫事新報「一妄論」ト題シテ一文ヲ掲ゲ其ノ結論中「吾人以上述ベタルガ如キ妄論ニ對シ實際醫家ニ警告スベキモノトハ思料セズ斯ル妄論ガ吾人ノ同胞中

無智無識ナル徒輩ヲシテ種痘ノ危險ヲ感シ恐怖セシムルガ如キ説明トナルベキモノト考ヘザレドモ不幸ニシテ世ニハ奇怪ナル人士アリテ斯ル妄論ヲ中心トシテ種痘法ニ反對シテ欣然タルモノ實在スルヲ悲シ云々ト云ヘリ。

然レドモ種痘後發微毒症ナルモノハ殆ド種痘法創始直後ヨリ爾來引續キテ報告セラレツツアルヲ如何セン一八一四年ニハイタリアノウンヂネ市ニ於テ三十名ノ實例報告セラレ一八二一年ニハ同ジククレタ市ニ於テ四十例一八三〇年ニハフレデリクスボルク市ニ於テ七例一八四一年ニハ同ジククレモナ市ニ於テ六十四例ノ同患者ヲ出シタル等枚舉ニ堪ヘズ一八一四年ヨリ一八九一年ニ至ル間ニ於テ英國以外ノ各町村ニ於テ少クモ四十五回ノ各同患者發生報告アリタリキ英國ニ於テ最初ニ本疾患ノ發生ヲ報告セルハ一八五九年「ドクトル」ヂヤス、ボワイトヘツド氏ニシテ可ナリ眞劍ナル反響ヲ來セリ一八七一年四月二十五日微毒學大家ヂヨナサン、ハツチンソン博士ハ初メテ本問題ニ就テ王立內科學及外科學協會ニ報告スルトコロアリ乃チ十二名主トシテ青年ノ者ニ一見健全ナル兒童ヨリ採漿シテ種痘接種ヲ施サレタルガ内十名ハ其ノ痘痕ニ下疳ヲ併發シタリト云ヘリ。

其ノ後間モナクハツチンソン博士ノ共著者ノ一人タルワールン、テー氏ハ又他ノ報告ヲナシテ一群ノ被種痘者中九名ノ小兒微毒ニ感染シ六名ハ微毒ニ疑ハシキ症狀ヲ呈スルニ至リシト云ヘリ然ルニ其ノ後又シテモハツチンソン博士報告中ニ他ノ一群ノ不幸ナル感染者ヲ示セルアリシヲ以テ斯界ノ大家ハ遂ニ其ノ可能性ヲ認メ種痘後發微毒症ナルモノノ存在ヲ肯定セリメルボルン市ノヂヤス、デー、ベニイ氏ハ一八八〇年其ノ著「遺傳微毒」中ニ次ノ如ク云ヘリ。

「而シテ予ハ卒直ニ予ノ所信ヲ告ゲン微毒ハ甚ダ屢々種痘法ニ依リ小兒痘漿ヲ介シテ傳染ス、コノ事實ハ予自己ノ所論トシテ予自ラ支持スルモノナリ予ハ予ノ實地開業中親シク取り扱ヒタル實例ヲ無數ニ有

スルモノニシテ其ノ病狀ハ最モ明白ニ最モ確實ニ如何ナル疑問ノ餘地ダモ無キ微毒ノ現存ガ發痘ニ伴ヒタルモノナリ而シテ是レ明ニ種痘ニ因リテ發セルモノナリト云々。

種痘發成論者「ドクトル」エドワード、バラード氏ハ其ノ著書タル懸賞論文中ニ「斯ル事實ハ每常發見スルコトナリ而シテ其ノ數ハ恐ラク百ヲ以テ算スベク從來スルコトハ不可能ナリナドト云ハレタルニ對シテ立派ニ對向スル實證ナリ」云々ト述ベタリ又「ドクトル」チャイルス、ドライス、デーブル氏ハ其ノ著トシテ一八七六年三月八日發行「メジカル、プレス、アンド、サーキユラー」誌上ニ述ベテ曰ク「予ハ凡ソ相當ノ教育アル公平ナル醫師タランニハ微毒ガ種痘ニ依リテ可ナリ廣ク傳播セラルル事實ニ疑ヲ置カザルベシト思料ス」ト云ヘリ、

「ドクトル」コリー氏ハ地方衛生局在勤ノ専門家ナルガ種痘接種ニヨリテ微毒ヲ移染セシムルコトアルヲ否定シ且此危險絶對ニコレナキコトヲ確信ヲ以テ立證セン爲カ自體ヲ以テ其ノ實驗ヲ供覽セントシ、自ラ接種ヲ行ヒテ遂ニ微毒ニ感染シ再ビ健康ヲ恢復シ得ザリシガ氏ノ實驗ハ結局此恐ルベキ條件ヲ唯一回ノ實證ヲ以テ充分裏書シタルモノニシテ凡テノ異論ヲ壓伏シテ餘リアリト云フベシ。

他方、牛痘漿ヲ以テ種痘ヲ行フニ於テハ微毒移染ノ恐レ絶對ニコレナカルベシトノ主張アルベケレド、事實上全然健康ナリシ小兒ガ此種ノ痘苗ヲ以テ種痘接種セラレタル後、微毒ヲ繼發セル多クノ實例アリ、ハツチンソン博士ハ一八九一年一月發行ノ「外科公記録」誌上ニ於テゼンナー氏法ニ依ル牛痘漿ヲ應用セル種痘接種ノ後、微毒ト同一ナル病狀ヲ繼發シタル實例ヲ擧ゲ之ヲ一八八九年十月氏ガ同誌上ニ報告セル他ノ同一例ト比較シ詳細ニ其ノ病狀ヲ記載セル後注意シテ曰ク「結局余輩ハ種痘ハ全然微毒病原ヲ同時ニ含有セザル痘苗ヲ用ユルニ於テモ、被接種者ニ先天又ハ後天的微毒潜伏アルニ當リ之ヲ誘起セシメ發動セシメ得ルヲ想像スルモノナリ、特ニ先天微毒存在ニ於テ從來特異ノ病狀ヲ有スルモノト考ヘラレ居

レルノミナラズ特殊療法ニ依リテ發病ヲ抑止セラレ來レルモノノ種痘ニ依リテ始メテ發動スルヲ見ルコトアルベシ、余輩ハ將來此點ニ於テ一層多クノ文献ニ接センコトヲ希望シテ止マザルモノナリ」云々。

是等ハツチンソン博士ノ報告セル實例ト極メテ近似セル實例ハ「ドクトル」フレデリク、テニラー氏及エドモンド、フアイスン氏ニヨリ王立種痘研究委員第六回報告中ニ記述サレタリ、乃チ健康ナル一小兒ガゼンナー氏法ニ依ル牛痘苗ヲ以テ種痘接種ヲ施サレタル後、癩ヲ發シ壞疽ニ陥リ遂ニ死亡セル實例ナリ、斯ル死亡例ハ其ノ後モ亦少カラズ、牛痘漿ヲ以テセル種痘接種ガ明カニ微毒性症狀ヲ發シ、遂ニ死亡セル例證多クアリキ。

「ドクトル」チャイルス、クレイトン氏ハ牛痘ノ眞ノ親和ハ痘瘡 Small-pox ニ對スルモノニアラズシテ寧ロ微毒 Great-pox 乃チ性病ニ對スルモノナリト説ケリ、然ラバ牛痘接種ニ繼發スル微毒症狀ヲ見ルモ亦宜ナル哉、唯其ノ本來ノ眞面目ヲ再現セシニ外ナラザルニハアラズヤ。

斯ノ如キハ實ニ極メテ僅少ノ數例ヲ示セルニ過ギズ、官廳ノ記録ノミニ微スルモ尙同様ノ實例多クアリ、テ斯ノ如キ恐ルベキ事實ノ現存ハ種痘ヲ信賴セシメラレ法令ヲ以テ之ガ施行ヲ強制セラルル大衆ノ不幸ナルニ想到スルトキ、多クノ公團體ハ斯ル惡法令ハ強制スベキニアラザルモノナルヲ理解シ之ヲ撤回セントスル機運ヲ醸成シ、乃チ貧民法委員ノ選舉ニ當リ所々ニ於テ此強制種痘法令ノ撤回ヲ目的トスルヲ政見トシテ發表シテ選舉戰ヲ試ムルニ至レリ、例ヘバヨークシャー、ケリー地方廳ニ於テハ其ノ吏員ハ一八七六年度ニ於テ最大多數反種痘者ナリシガ、州知事廳ハケリー地方廳ニ要求シテ法令ノ命ズル所ニ從ヒテ犯則者ヲ檢舉セシメタルニケリー地方廳ハ爲ニ閉鎖ノ止ムナキニ至リ結局委員等ノヨーク刑務所收容トナリシガ遂ニ唯名義上ノ服罪ヲ得シニ止マリ釋放セラレ爾後ケリー地方廳ニハ該法強制ノ手遂ニ及バザルニ至レリト云フ、ケリー地方ハ現ニ英國中最モ反種痘ノ顯著ナル地方ニシテ、同時

ニ未だ管テ一名ノ痘瘡患者發生ヲ見ザル地方ナラトス。又、
 グレスター市ハ又同ジク反種痘主義者ノ根據地ナリ、一八七二年ノ痘瘡大流行ニ當リ其ノ地ニ於テ實地
 體験セル種痘無効力ノ醜狀ハ途ニ將來ニ於ケル種痘ノ信用ヲ失ハシメ全市ヲ舉ゲテ種痘反對ノ民トナ
 少テラシメタリキ而シテ種痘ヲ強制セムトスル官廳下之ニ反對スル民衆トノ間ニ激甚ナル爭議行ハレ、
 大凡斯カル場合恐ラクハ常ニ斯ク落着スベキ運命即チ民衆派ノ勝利ニ歸シ一八八五年其ノ大祝賀會行
 ハレ示威大行列催サレ近縣ヨリ主義ヲ同フズル大衆多數參加シテ手ニ手ニ大旗ヲ立テツツ一哩ノ長キ
 隊伍ヲ組ミテ市中ヲ行進シ種痘法令原本ヲ街路上ニ持テ來テ公然之ヲ燒却シタル等該市ノ歴史上未曾
 有ノ大盛儀ヲ以テ終始セリト云フ此示威運動ハ忽チ其ノ影響ヲ近縣地方ニ普ク及ボシ反種痘同盟ノ聲
 天ニ起レリグレスター市ノ主要人物等ハ更ニ他市町ノ同役同僚間ニ同様ノ行動ヲ起スベキトテ德源
 シ自ラ其ノ實例ヲ示セリト爲セリ而シテ反種痘主義者ノ第一ノ理由ハ實ハ種痘ノ效力ガ痘瘡發生豫防
 ニ何ノ貢獻ヲキ點ニアルニハアラザリシモ多數民衆ト相容レザル官廳ハ其ノ報告中ニ民衆ハ種痘無効
 カヲ主ナル理由トシテ反種痘法主義ニ陥レリト云ヘリ。

然レドモ斯ル争闘ハ結局途ニ有終ノ勝利ヲ以テ了ラザリキ僅少ノ同志ヲ糾合シテ孤壘ニ倚レル地方點
 在反種痘主義者等ハ其ノ主張ヲ貫徹シ其ノ主義ヲ守ルニ甚シキ困難ヲ感ジ可ナリノ惡闘ヲ重ネタリキ
 彼等ハ其ノ愛兒等ヲ強制種痘ノ手ヨリ免レシメシト努力スル爲メ絶エズ罰金刑ヲ科セラレ其ノ罰金ヲ
 完納セザルニ於テハ家財ノ沒收商品ノ差押ニモ及ボシタリ又罰金ニ代償スベキ何等ノ財品ヲ有セザル
 同志ハ途ニ收監セラレ而モ單ニ罰金ニ代ル留置ト云フハ名ノミニテ實際上苛酷ナル勞役ニ服セシメラ
 レキ斯ク反種痘主義者ニ對ズル壓迫ノ手ハ止マザリシヲ以テ或ル地方ニ於テハ一婦人ノ如キ其ノ主義
 ニ殉ズルニ至リ彼女然亡夫ヲ信ゼシ種痘罪惡論ヲ徹底的ニ奉ゼル爲メ投身自殺セルモノサヘアリキ又

多クノ反種痘主義者ハ此官憲ノ不法壓迫ノ爲メ國外ニ移住ヲ企テ不法ナル官憲ノ人權蹂躪ト苛酷ナル
 罰金刑刑ヨリ免レンドスルニ至レリ是レ何レモ定見ナキ醫師等ノ自己利得ヨリ出發セル官憲德運ヨリ
 出デシ罪ト云フベシ。

醫師等ハ元來種痘法ノ理論ニ就テ全ク無智ニシテ彼等ハ學生時代ニ於テ唯如何ニシテ種痘スベキカ其
 ノ手技ノミヲ習得セシメラレシノミニシテ開業後ハ唯痘苗ノ新舊如何ト其ノ豫想的妄斷的効果ト賣上
 高下反種痘主義者ニ對スル憎惡ノ念ノ他何ノ注意モ研究モ爲サズ唯學生時代ニ始メテ知リタル知識ノ
 ミヲ守ル輩ナリ大英國ニ於テ三萬ノ醫師中僅ニ四千人ノミガ公種痘醫ニシテ他ハ皆事實上素人ト異ナ
 テズ而モ彼等ハ大衆ノ無識ヲ見越シ安心シテ民衆ニ臨ミ同情スベキ反種痘主義者ヲ壓迫シ永ク爭議ヲ
 續ケ來レルナリ而モ此暴君的強制手段ハ年ヲ逐フテ愈露骨ニシテ初期ニ於テ吾人ガ蒙リシ災害ヨリモ
 大衆ノ上ニ下サルル壓迫ノ方著シク大トナリ來レリ吾人ハ彼ノ同情スベキ母等ガ彼女等ノ腕ニ愛兒ヲ
 抱キツツ不信ナル種痘ヲ強制セラルルカ又ハ苛酷ナル罰金ノ誅求ニ痛心スベキカノ境ニ不安ナル戰慄
 ヲ以テ歩ムヲ考ヘズシテ可ナルベケンヤ殊ニ彼女ハ種痘ヲ拒避スレバ彼女ノ夫ハ爲ニ罰金刑ヲ科セラ
 ルベク又彼女等ハ夫等ノ不在ニ乘ジテ官憲ヨリノ壓迫ヲ家庭ニ受クルコト多ク此際官憲ハ常ニ彼等自
 身ガ充分根據ナシニ妄信セル其ノ種痘ヲ實施セザルニ於テハ彼女等ノ上ニ罰金刑ヲ以テ臨ムベシト威
 赫スルヲ如何セン。

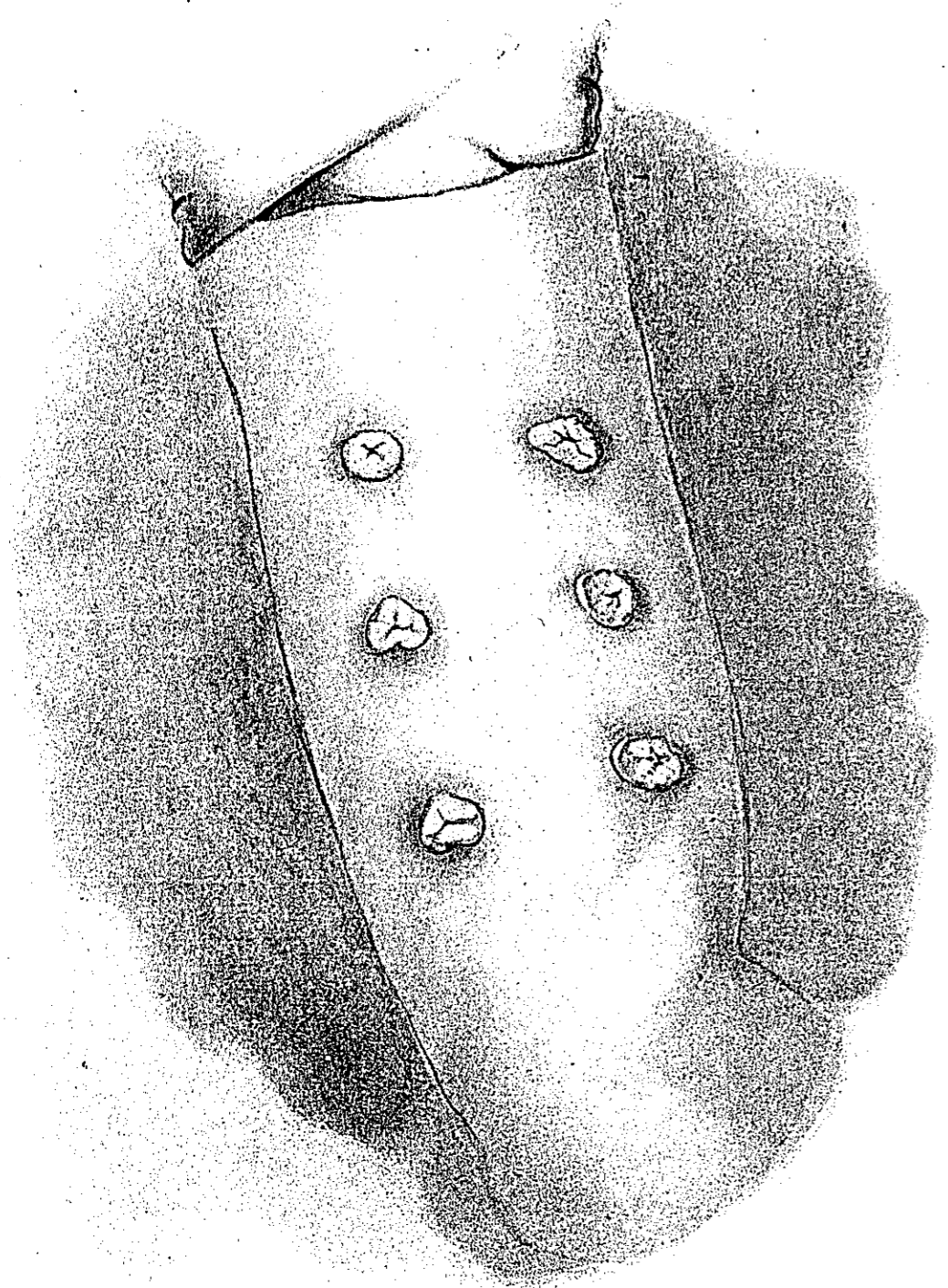
然レドモ斯ルモノノミニテモ非ザルナリ一部ノ醫學者ハ他ノ大多數ノ凡醫ノ如クニテモ非ザリキドク
 トルW. J. コリンズ氏ノ如キ尊敬スベキ献身家アリテ公種痘醫トシテノ數年間ノ收入ヲ犧牲トシ種痘ノ
 害毒ヲ大衆ニ知ラシムル爲メ大ノ費用ヲ支出シテ出版ニ「パンフレット」配布ニ努力ヲ續ケタル人モナキ
 ニ非ザリキ又「ドクトル」スゴット「デブ」氏ノ如キハ始メ其ノ父タル反種痘主義者ノ重鎮「デブ」氏ノ所説ニ疑

ヲ持チ自ラハ公種痘醫トシテ種痘宣傳ニ努力セシ人ナリシニモ拘ラズ其ノ後學理研究ノ歩ヲ進メ各般ノ文献ヲ調査スルニ及ビテ遂ニ其ノ父ノ所説正シカリシヲ知リ飄然トシテ昨ノ非ヲ改メテ種痘ヲ打チ切リ幼兒種痘ニ反對ノ聲ヲ擧グルニ至レルノミナラズ一書ヲ著シテ學理上ヨリ反種痘主義ヲ説ケル爲メ遂ニ筆禍ニヨリテベンチ地方衛生官ヲ免ゼラルルニ至リタル人アリ「ドクトル」チャーレス・クレイトン氏亦當時疫學ノ最高權威ノ一人タリシガ大英百科全書第九版ニ種痘ニ關スル一文ヲ寄稿スルニ當リセシナリ以後今日迄ニ至ル間ノ種痘史ヲ委シク研究シ當初自身ノ固持セル所説ヲ改メテ種痘ハ醜惡ナル一迷信ニ他ナラズト結論スルニ至リタリキ爲ニ氏ハ宮廷ニ於ケル樞要ナル地位ヲ失ヒタルモ之ニ屈セズ所信ヲ説キテ止マザリキ「ドクトル」オールタ「R」ハツドエン氏ノ如キハ彼ガ學位ヲ受クル前「サマセツト」州「ハイブリツ」市ニ一化學者トシテ研究中ノ頃ヨリ種痘問題ノ調査ニ努力シ彼ノ子女等ニ種痘ヲ施スコトヲ肯ゼズ爲ニ凡ユル迫害ヲ受ケシモ學位ヲ受クルニ至リテ反種痘主義者ノ重鎮トナリ文筆ニ演説ニ同僚醫師ノ攻撃ヲ物トモセズニ努力セリ「ドクトル」エドワルド「ホートン」氏ノ如キハ當年ノ大學首席卒業者ナルガ終始ゼンナリ氏ノ所説ニ反對シテ止マザリキ「ドクトル」ガ「ズキル」キンソン氏モ亦其ノ著書ニ於テ彼ノ「スエデン」ボルギアン「教」ノ肯定セザルトコロナリトシテ種痘ニ反對シ大文書ヲ以テ堂々ト争ヒタリ爾餘數百ノ篤學者ノ反種痘説ハ一々茲ニ擧グルニ堪ヘザル程無數ナリ。

英國ニ於ケル下級大衆ノ幾千萬ガ反種痘ノ聲ハ數次代議士ニヨリテ上院下院ニ提議セラレ醫學界及法曹界ニ於テ相當成功スルニ至リ遂ニ一八九八年ニ於テ一度勅令ヲ以テ決定セラレシ法律ナルニモ拘ラズ一部修正ヲ餘儀ナクセラレ惡法令ノ存在ハ七年ノ後改正セラレ始メテ最初起案セラレタル正シキ條理ヲ舍メル法令トナリテ世ニ現ハルルニ至リヌ此改正法令ニ依レバ種痘ニ反對スル親モ罰金刑ヨリ免ルルコトヲ得ルコトト爲レリ即チ兩親ハ其ノ子女ノ生後四箇月以内ニ彼等ノ申立ヲ理解スル判事又ハ

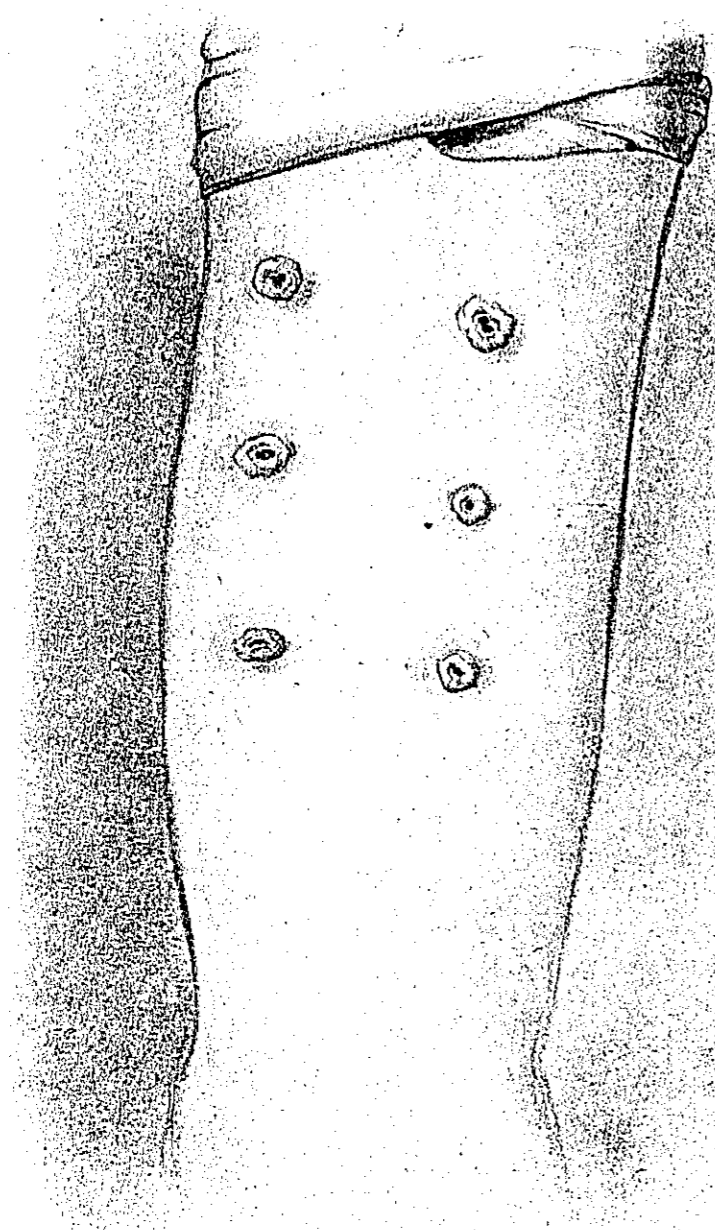
區裁判所判事二名ニ依リテ兩親ガ「種痘」ニ異議アル旨ヲ真正ニ信ズルモノト認メラレタル場合ニハ種痘ヲ免除セラレ得ルコトトナレリ而シテ或ル地方ニ於テハ幾千幾萬ノ子女ガ此條項ニ照シテ處置セラレ居レルモ又地方ニ依リテハ兩親等ノ申立ヲ理解スル判官ヲ有セズ困難セル向モアリキ然ルニ斯ル不完全ナル改正法ヲ行フコト九年ノ後一九〇七年ニ至リテ更ニ改正法令發布セラレ彼等ハ其ノ申立ガ判官ヲ理解セシムルヲ要セズ唯異議ノ申立ヲ行フノミニテ可ナルコトトナレリコレニ依リテ最近數年間ニ出生セル兒童ノ半數ハ種痘ノ要ナキモノトナレリ而モ種痘忌避兒童ノ増加ト正比例シテ痘瘡死亡者ノ數モ亦減少シ過去十箇年間ニ於テ愈種痘未濟兒ノ數増加シツツアリ而シテ此間英國及ウエールス州ニ於テハ痘瘡患者數ハ我が歴史上如何ナル時期ヨリモ少キ事實アリ之ニ加フルニ衛生法ノ實施即チ市街ノ清掃上下水ノ完備交通ノ整理市街建築法ニ依ル各家屋周圍ノ空地及空氣ノ供給不良食料ノ禁止等モ亦同時ニ眞痘ノ發生ヲ抑止スルニ力アリタルハ勿論ナリ理解アル習慣適當ナル營養ノ給付等ハ本病撲滅ニ與リテカアルコト疑ナシトス。

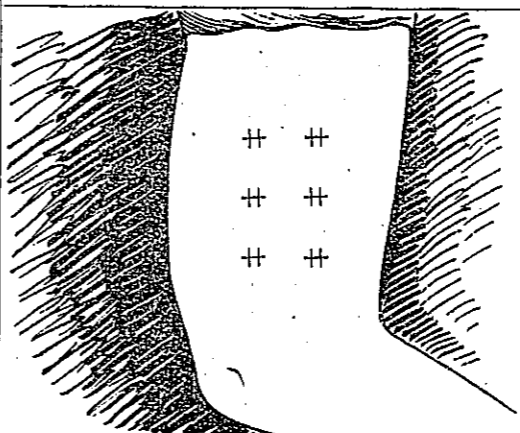
英國ニ於テ成功セル事實ハ亦印度ニ於テモ同様ニ成功スベキナリ反種痘主義ノ眞意ヲ尙一層理解セントスルモノハボンベイ市「シヨ」ン「バザ」三〇九番「ボンベイ」入道協會又ハ直接本同盟本部ニ申出デラルベシ詳細ノ「パンフレット」其ノ他ヲ發送セント欲スルモノナリ。

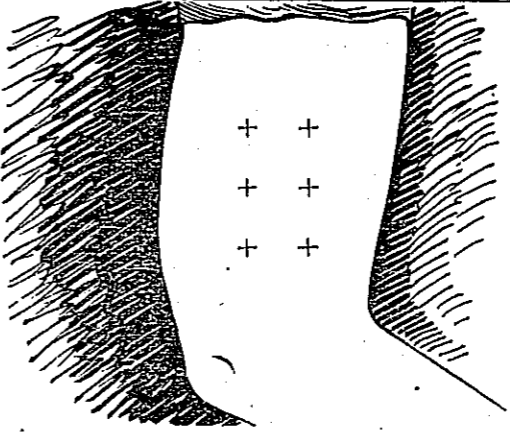


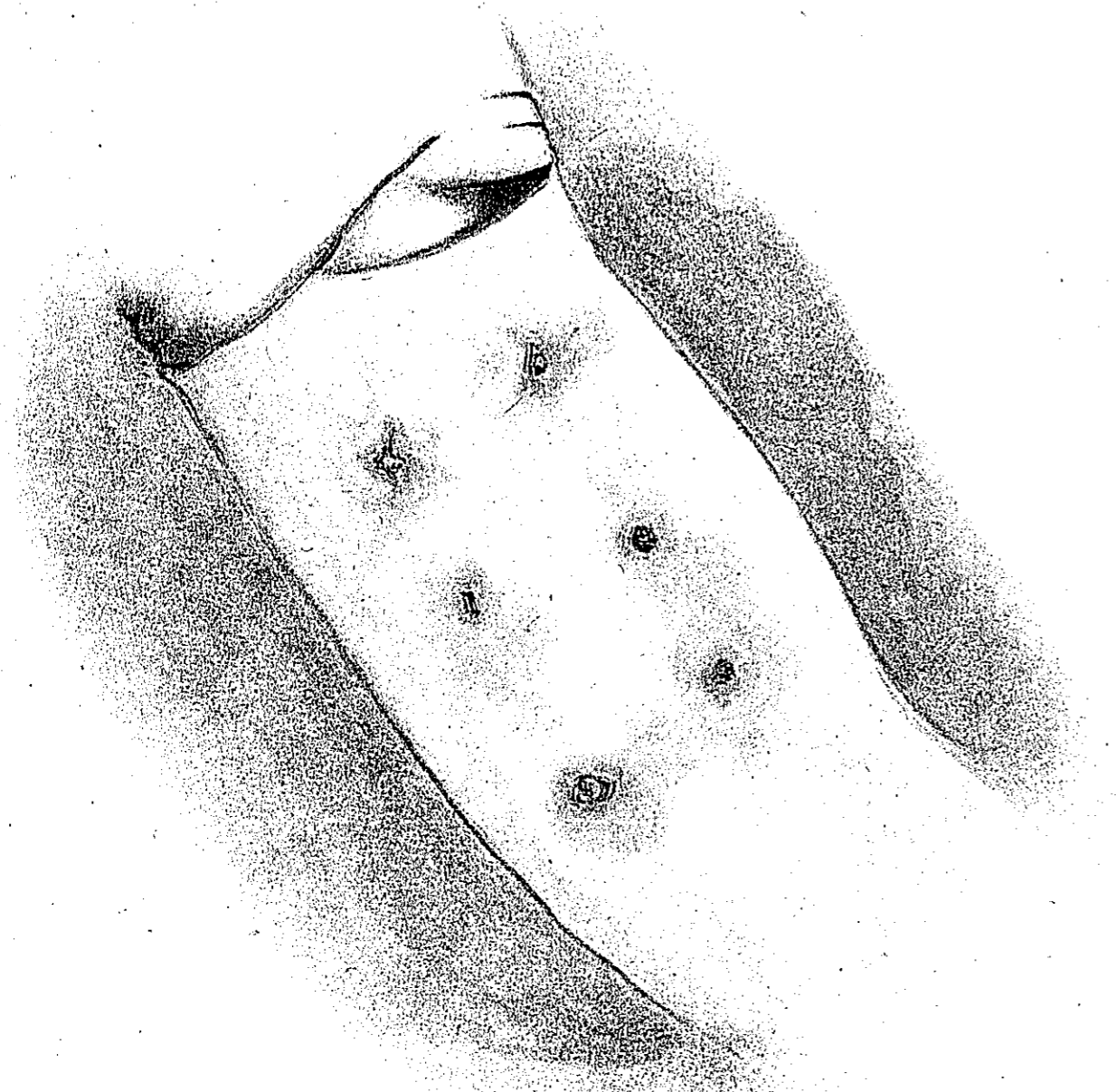
1

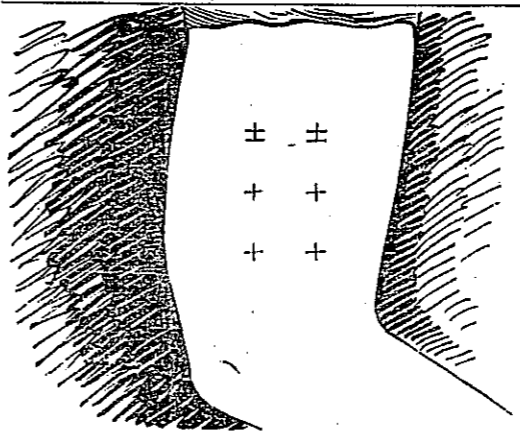
氏名	寺越次郎 男		年齢	當 6 歳
描寫ノ目的	強キ膿疱形成			
第種一期痘	未 種 痘		種痘痕	無 シ
今回ノ種痘	接 種	昭和 3 年 10 月 23 日	接種ノ部位	右 上 膊
	檢 診	昭和 3 年 10 月 30 日		
種痘成績			6 顆 善 感	
備考				

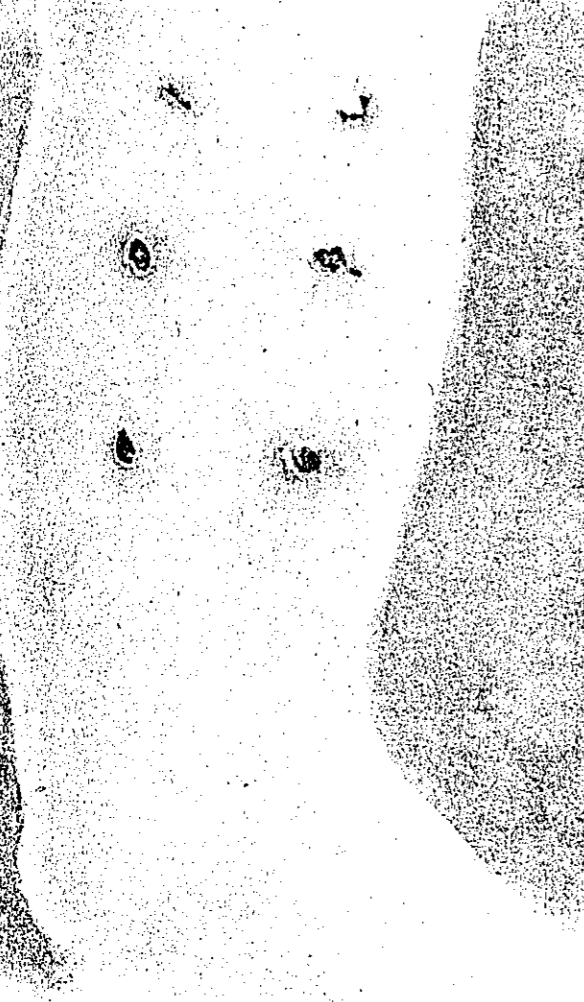


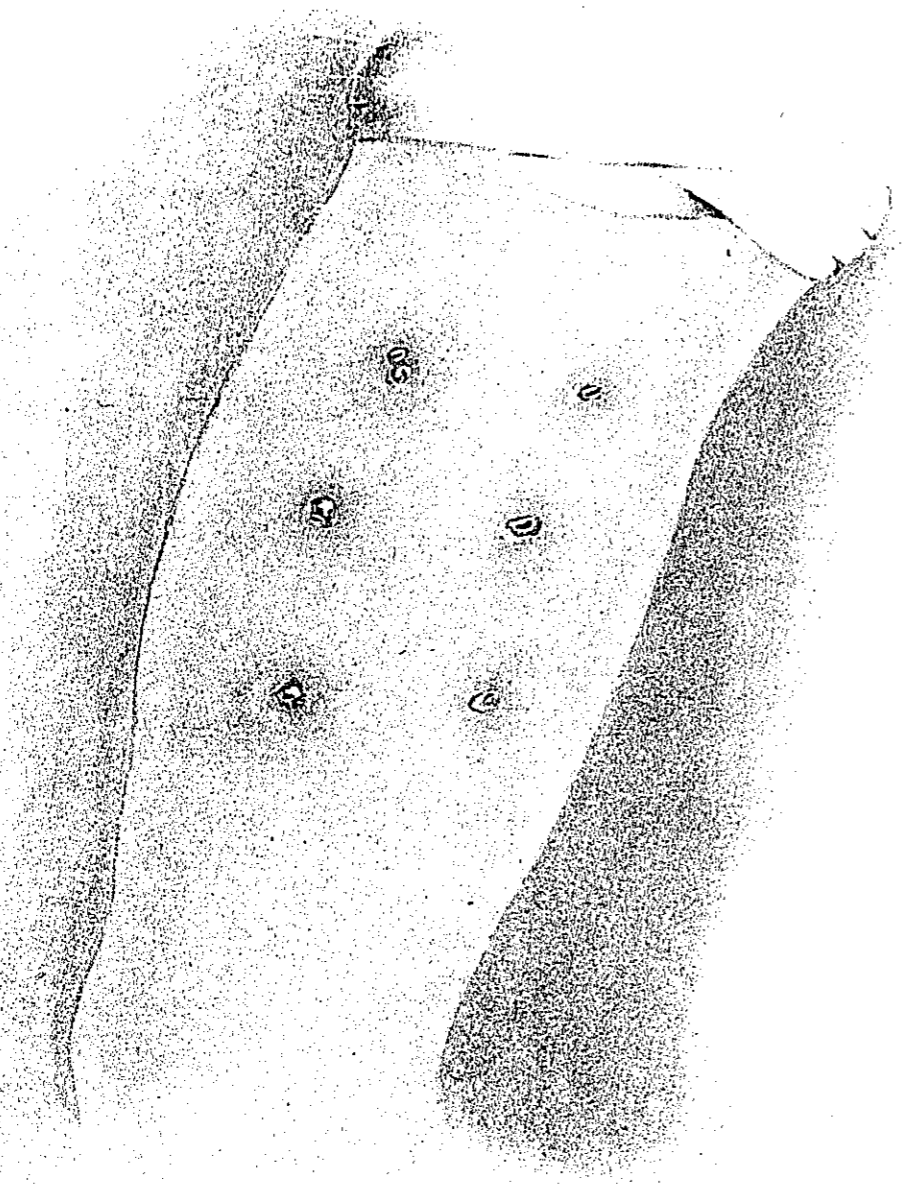
氏名	峯 岸 啓 造 男	年 齡	常 6 歳
描 寫 目 的	中等度ノ膿疱形成		
第種一期痘	大 正 1 3 年 1 月	種痘痕	右 4 顆
今回ノ種痘	接 種 昭 和 3 年 1 0 月 2 3 日 檢 診 昭 和 3 年 1 0 月 3 0 日	接種ノ部位	右 上 膊
種痘成績	 6 顆 善 感		
備 考	臨時種痘ヲ受ケズ		

氏名	清 水 成 夫 男		年 齡	當 6 歲
描 寫 ノ 目 的	弱キ膿疱ヲ形成ス			
第種 一 期 痘	大 正 1 3 年 1 月		種 痘 痕	右 1 顆
今 回 ノ 種 痘	接 種 昭 和 3 年 1 0 月 2 5 日 檢 診 昭 和 3 年 1 1 月 1 日		接 種 ノ 部 位	右 上 膊
種 痘 成 績			6 顆 善 感	
備 考	臨時種痘ヲ受ケズ			

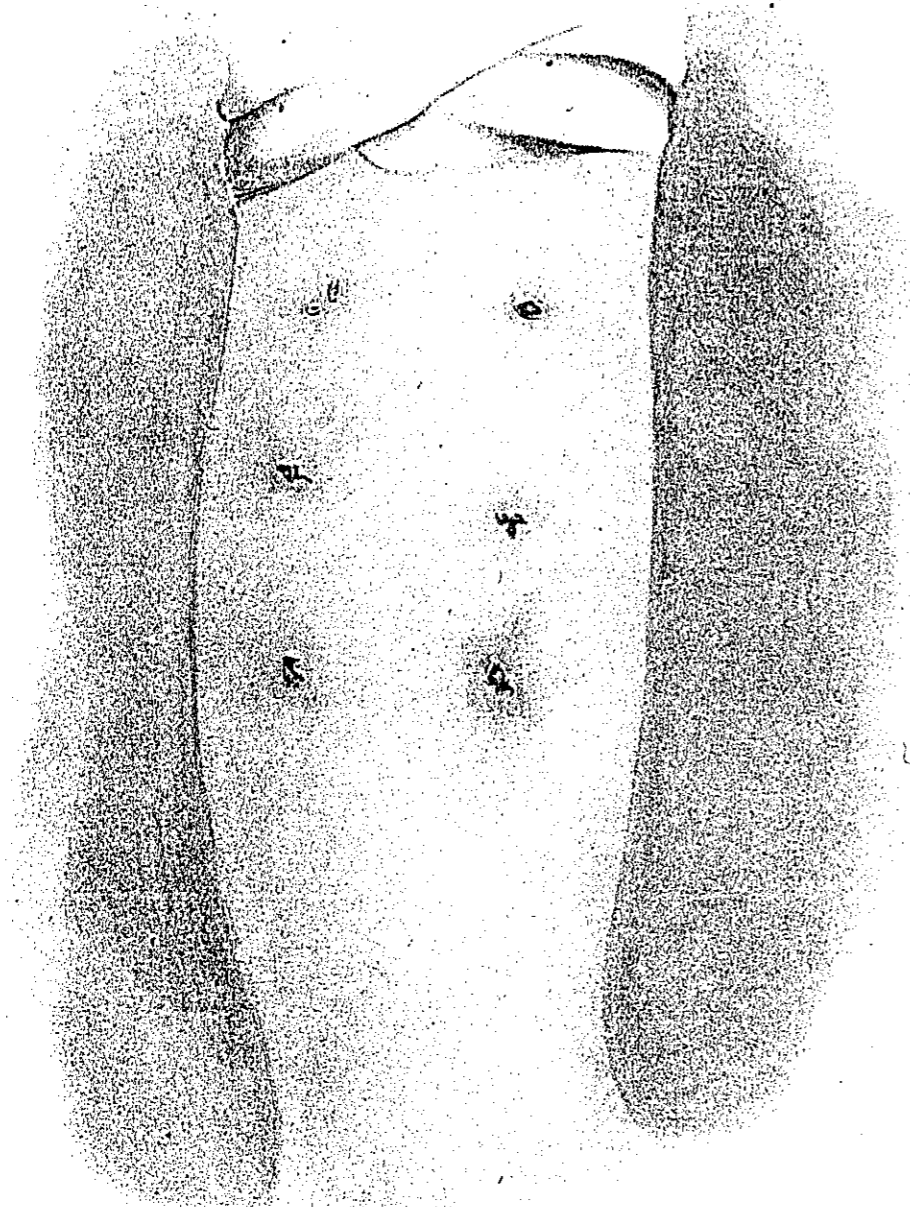


氏名	廣 瀬 芳 造 男		年 齡	當 5 歲
描寫ノ目的	上 2 顆中等度ノ浸潤丘疹 下 4 顆強キ浸潤丘疹			
第種一期痘	大 正 1 4 年 5 月		種痘痕	不 明
今回ノ種痘	接 種 昭 和 3 年 1 0 月 2 5 日	接 種 ノ 部 位	右 上 膊	
種痘成績			6 顆 善 感	
備考	臨時種痘ヲ受ケズ			

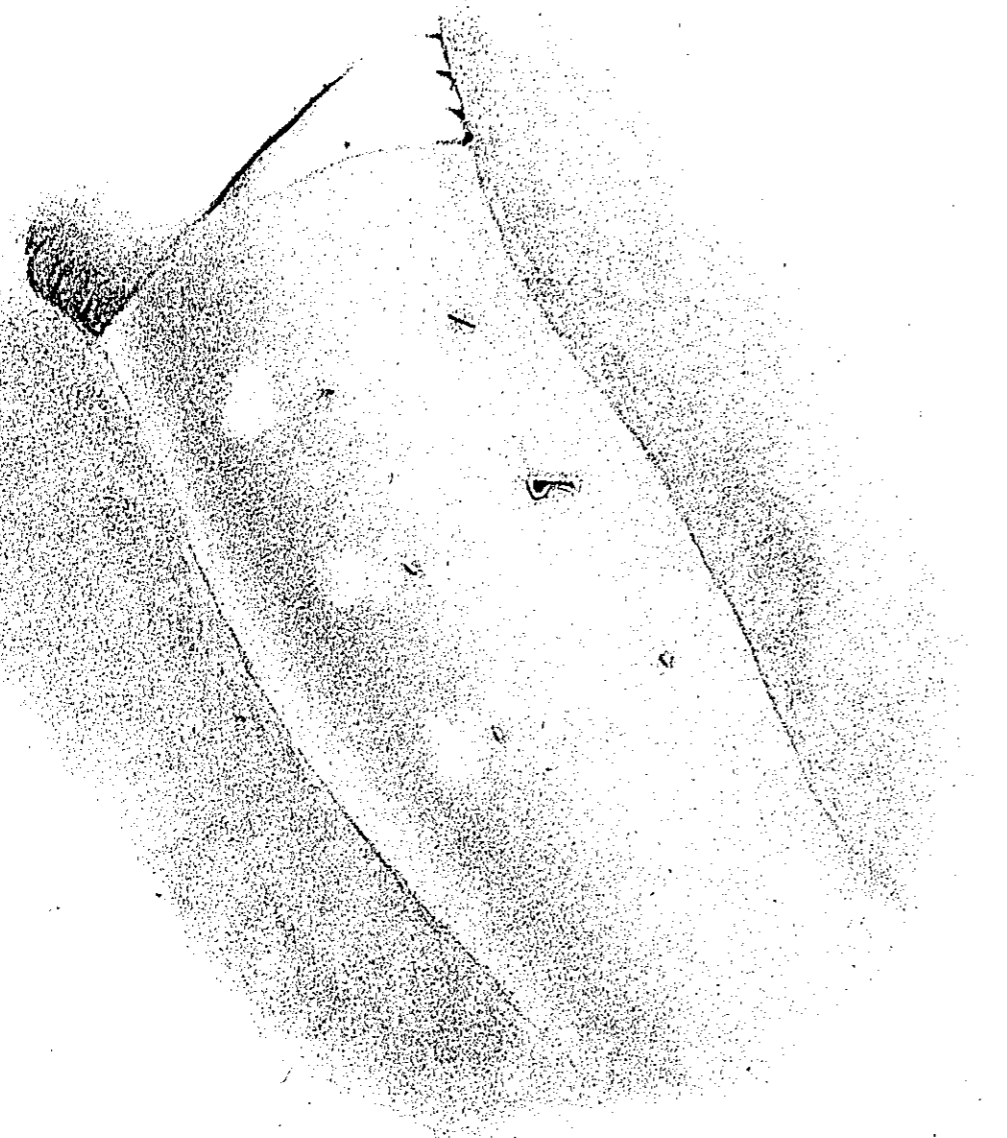


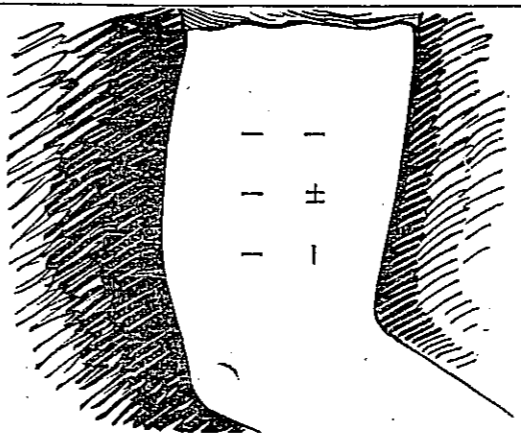


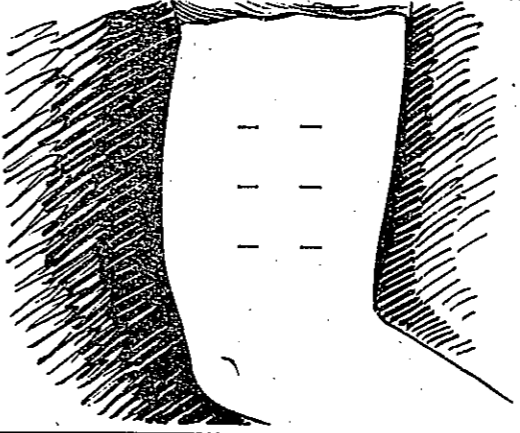
氏名	加 藤 シ ゲ 女		年 齡	當 6 歳
描 寫 ノ 目 的	6 顆 悉ク 中等 度 及 弧度 ノ ア レ ア ヲ 認 ム ル モ 浸 潤 著 明 ナ ラズ 小 結 節 ヲ 證 明 ス			
第 一 期 痘	大 正 1 3 年 1 月		種 痘 痕	右 4 顆
今 回 ノ 種 痘	接 種 昭 和 3 年 1 0 月 2 5 日 檢 診 昭 和 3 年 1 1 月 1 日		接 種 ノ 部 位	右 上 膊
種 痘 成 績			6 顆 善 感	
備 考	臨 時 種 痘 ヲ 受 ケ ズ			



氏名	西 村 夕 ヶ 女		年 齡	常 6 歳
描 寫 ノ 目 的	外側上ノ1顆ハ中等度ノアレアヲ貽スモ浸潤、結節ナシ、他ハ悉ク中等度ノ浸潤、丘疹ヲ證明ス			
第種一期痘	大 正 1 3 年 1 月		種痘痕	右 3 顆
今回ノ種痘	接 種 昭 和 3 年 1 0 月 2 5 日 檢 診 昭 和 3 年 1 1 月 1 日		接種ノ部位	右 上 膊
種痘成績			5 顆 善 感	
備 考	臨時種痘ヲ受ケズ			



氏名	瀧澤キク女	年齢	常 6 歳
描寫ノ目的	内側中央ノ1顆ハ中等度ノアレアト浸潤丘疹アリ		
第種一期痘	大正 13 年 1 月	種痘痕	右 6 顆
今回ノ種痘	接種 昭和 3 年 10 月 25 日 検診 昭和 3 年 11 月 1 日	接種ノ部位	右 上 膊
種痘成績			
備考	臨時種痘ヲ受ケズ		

氏名	藤野康之助 男		年齢	常 5 歳
描寫ノ目的	外側下1顆ハ弱キアレアルノミ浸潤ナシ			
第種一期痘	大正 1 4 年 5 月	種痘痕	右 5 顆	
今回ノ種痘	接種 昭和 3 年 10 月 2 5 日 検診 昭和 3 年 1 1 月 1 日	接種ノ部位	右 上 膊	
種痘成績			不 善 感	
備考	臨時種痘ヲ受ケズ			